

第4次香川県がん対策推進計画

進捗状況・取り組み状況について

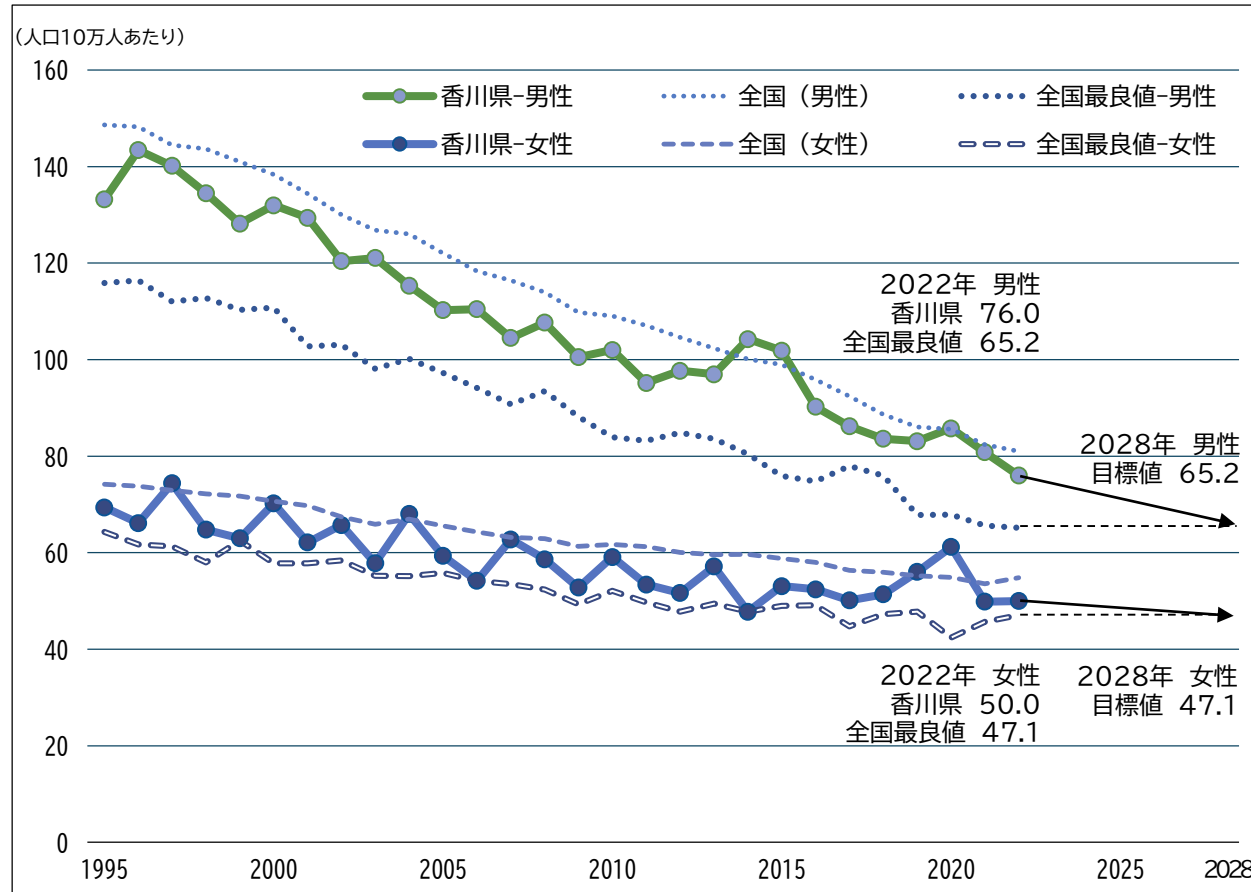
- 策定年月 令和6(2024)年3月
- 計画期間 令和6(2024)年度～令和11(2029)年度（6年間）
- 計画の位置づけ がん対策基本法(平成18年法律第98号)第12条第1項に基づく「都道府県がん対策推進計画」。国の「がん対策推進基本計画(第4期)」を基本とするとともに、「香川県がん対策推進条例(平成23年香川県条例第34号)」を踏まえた計画。
- 基本理念 「県民一人ひとりが、がんを知り、お互いに手をたずさえて、がんの克服を目指す」
- 全体目標
 - 【がん予防・がん検診】 科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実
 - 【がん医療】 患者本位で持続可能ながん医療の提供
 - 【がんとの共生】 がんとともに尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築

これらを支える基盤の整備
- 計画の進行管理 毎年度、「香川県がん対策推進協議会」において計画の進捗状況について報告する

【全体目標】

評価指標	現状値(2022年)	目標値	現状値	出典
がん年齢調整死亡率 (75歳未満、10万人あたり)	男性 76.0 女性 50.0	65.2 47.1	—	国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」(人口動態統計)

香川県と全国のがんによる75歳未満年齢調整死亡率(人口10万人あたり)



注)基準人口は昭和60年(1985年)モデル人口を使用

- 【男性】 全国平均に比べると概ね低い水準で、減少傾向がみられる。
- 【女性】 全国平均に比べると概ね低い水準で、減少傾向がみられる。

1 科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実①(がん予防) -指標-

	評価指標	策定時	現状値	目標値等	出典
最終目標	がんの年齢調整罹患率 (全部位/10万人あたり)	男性 女性 474.5 343.5 平成31(2019)年	436.1 ↓ 330.4 ↓ 令和2(2020)年	減少	国立がん研究センター がん情報サービス「がん 統計」(全国がん登録) 【参考資料1 8p】
	がん種別年齢調整死亡率※ (75歳未満、10万人あたり)	胃 肺 大腸 子宮 乳 7.0 11.2 7.6 4.7 10.4 令和4(2022)年	— — — — — (最新)	減少	国立がん研究センター がん情報サービス「がん 統計」(全国がん登録) 【参考資料1 7p】
分野別目標	がん種別年齢調整罹患率※ (全年齢、10万人あたり)	胃 肺 大腸 子宮頸 乳 47.5 44.7 53.1 16.1 94.1 平成31(2019)年	39.0 ↓ 41.2 ↓ 51.2 ↓ 12.9 ↓ 88.2 ↓ 令和2(2020)年	減少	国立がん研究センター がん情報サービス「がん 統計」(全国がん登録) 【参考資料1 9p】
	検診がん種の進展度のうち「限局」の割合	胃 肺 大腸 子宮頸 乳 62.0% 43.4% 47.1% 41.6% 64.3% 平成31(2019)年	62.4% ↑ 38.9% ↓ 48.6% ↑ 42.4% ↑ 68.3% ↑ 令和2(2020)年	増加	全国がん登録 (表5-1. 進展度・総合(%): 部 位別 A上皮内がんを除く)
中間目標(一次予防)	20歳以上の喫煙率	15.6% 令和4(2022)年	— (最新)	8.0%	国民生活基礎調査
	がん種別年齢調整罹患率(全年齢、10万人あたり)(一部再掲)	胃 子宮頸 肝 47.5 16.1 13.5 平成31(2019)年	39.0 ↓ 12.9 ↓ 12.2 ↓ 令和2(2020)年	減少	国立がん研究センター がん情報サービス「がん 統計」(全国がん登録) 【参考資料1 9p】

1 科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実①(がん予防) -取り組み-

計画	取り組み等(予定も含む)
①喫煙対策	<ul style="list-style-type: none"> ・望まない受動喫煙を防止する改正健康増進法の内容に則し、各保健所と連携して一般住民、事業所等への周知や相談指導等を実施。 ・世界禁煙デー(5/31)、禁煙週間(5/31～6/6)にあわせたポスター掲示等を実施。 ・県ホームページで禁煙治療(禁煙外来)可能な医療機関の情報を掲載。 ・健康増進法における第一種施設(行政の庁舎等)である県の庁舎等において、平日の毎月22日(スワンスワンデー)に終日禁煙を実施。 ・主に飲食店向けに改正健康増進法に基づく受動喫煙対策に関する情報提供パンフレットを作成し配布。
②感染に起因するがん予防対策	<ul style="list-style-type: none"> ・HPVワクチン接種等については、定期接種であることの周知など、子宮頸がんの正しい知識の啓発のため、マンガ本の配布やYouTube動画の公開を行った。 ・HPVワクチンのキャッチアップ接種について情報提供を実施。 ・県内の保健所及び指定医療機関でB型肝炎・C型肝炎ウイルス検査を実施。 ・B型肝炎患者、C型肝炎患者等に対する抗ウイルス治療にかかる医療費の助成を実施。 ・B型肝炎・C型肝炎ウイルス陽性者に対して、医療機関への受診・受療勧奨、及び受診状況の確認を実施。
③食生活、運動等の生活習慣の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の健康づくりや健康診断の受診等に対するインセンティブを設け、アプリを使って楽しみながら継続的に健康づくりを実践する「かがわ健康ポイント事業(マイチャレかがわ!)」を実施。 ・全国健康保険協会香川支部と連携して、中小企業の従業員とその家族の生活習慣の改善やがん検診・特定健診の受診率向上を図るなど事業所ぐるみの健康づくりを推進。禁煙に関する取り組みも評価し促進。 ・健康づくり出前講座により、がん予防に効果的な生活習慣や食習慣を啓発。

1 科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実②(早期発見・早期受診)

	評価指標	策定時	現状値	目標値等	出典	
中間目標(二次予防)	検診受診率 ※40歳～69歳 (胃がんは50歳～69歳、子宮頸がんは20歳～69歳)	胃 肺 大腸 子宮頸 乳 令和4(2022)年	52.7% 54.0% 47.9% 48.8% 52.2% (最新)	— — — — —	60% 以上	国民生活基礎調査 【参考資料1 11p】
	精密検査受診率 ※40歳～74歳 (胃がんは50歳～74歳、子宮頸がんは20歳～74歳)	胃 肺 大腸 子宮頸 乳 令和3(2021)年度	93.0% 94.3% 79.2% 86.5% 96.7% 令和4(2022)年度	90.9% 93.1% 79.9% 89.0% 95.7%	90% 以上	地域保健・健康増進 事業報告 【参考資料1 12p】

	計画	取り組み等(予定も含む)
	①がん検診の受診率向上対策	<ul style="list-style-type: none"> ・「香川県がん検診受診率向上プロジェクト推進企業グループ」との協働によるポスター・リーフレットの作成、配布。 ・「香川県がん検診推進サポーター」制度を設け、サポーター認定研修会を実施した。(参加者数293名) ・がん検診の重要性について広報・啓発を実施。 ・乳がん月間である10月にサンポート高松シンボルタワーのライトアップイベントの開催。(予定) ・ピンクリボン ポスターコンテストの開催。 ・乳がん月間である10月の休日に、県内の医療機関の協力を得て、乳がん検診・子宮頸がん検診を行う「かがわマンモグラフィサンデー」を実施。
	②がん検診の精度管理等	<ul style="list-style-type: none"> ・要精密検査と判定された者への情報提供に資するため、精密検査に必要な要件を満たす医療機関からの届出により、名簿を作成、周知。 ・精密検査の重要性について普及啓発を実施。 ・がん検診実施体制の整備のために必要な医療機器及び臨床検査機器等の整備に要する経費を補助。(昨年度実績 3 医療機関) ・住民検診の結果を評価し、国の指針に基づき適切な精度管理を行うため、がん種ごとに部会を開催。
	③科学的根拠に基づくがん検診の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・住民検診の結果を評価し、国の指針に基づき適切な精度管理を行うため、がん種ごとに部会を開催。(再掲) ・がん検診の精度管理調査を市町及び受託医療機関に対し実施。

2 患者本位で持続可能ながん医療の提供 -指標-

	評価指標	策定時	現状値	目標値等	出典
最終目標	現在自分らしい日常生活を送れていると感じるがん患者の割合	62.3% 平成30(2018)年度調査	—	増加	患者体験調査【問35-7】
分野別目標	がんの診断・治療全体の総合的評価	7.9点(平均点) 平成30(2018)年度調査	—	向上	患者体験調査【問23】
	身体の苦痛や気持ちのつらさを和らげる支援は十分であると回答した者の割合	38.1% 平成30(2018)年度調査	—	向上	患者体験調査【問36-1】
中間目標	がん診療連携拠点病院の数	5病院 令和5(2023)年	—	維持	がん診療連携拠点病院等現況報告
	一般の人が受けられるがん医療は数年前と比べて進歩したと回答とした人の割合(参考指標)	68.6% 平成30(2018)年度調査	—	—	患者体験調査【問30-1】
	専門的な緩和ケア部門(緩和ケア外来や緩和ケアチーム)に相談したことがある人の割合	10.2% 令和4(2022)年度調査	—	向上	香川県がん患者ニーズ調査【問29】
	身体的なつらさがある時に、すぐに医療スタッフに相談できる人の割合	35.9% 平成30(2018)年度調査	—	向上	患者体験調査【問35-5】
	心のつらさがある時に、すぐに医療スタッフに相談できる人の割合	21.1% 平成30(2018)年度調査	—	向上	患者体験調査【問35-6】
	最初のがん治療が開始される前に、医師からその治療による不妊の影響について説明を受けた人の割合	49.0% 平成30(2018)年度調査	—	向上	患者体験調査【問16】

2 患者本位で持続可能ながん医療の提供 -取り組み-

計画	取り組み等（予定も含む）
(1)がん医療提供体制等の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての地域において質の高いがん医療を提供できる体制づくりとして、国が指定する「がん診療連携拠点病院」による、がんの各治療法等の充実や多職種でのチーム医療に取り組んでいる。（都道府県がん診療連携拠点病院：香川大学医学部附属病院、地域がん診療連携拠点病院：県立中央病院、高松赤十字病院、香川労災病院、三豊総合病院の計5病院） ・がん診療連携体制の一層の充実と、がん医療水準の向上及び均てん化を目的として、がん診療連携拠点病院に準ずる病院として県独自指定の「香川県がん診療連携協力病院」として高松市立みんなの病院、四国こどもとおとなの医療センターの2病院を指定した。（R6.4～指定期間4年間） ・がんゲノム医療連携病院に香川大学医学部附属病院、県立中央病院、高松赤十字病院、香川労災病院が、それぞれ指定されている。 ・小児がん拠点病院と連携して小児がんの医療および支援を提供する「地域の小児がん診療を行う連携病院」として、香川大学医学部附属病院と四国子どもとおとなの医療センターが指定されている。
(2)がんの特性や世代に応じた対策	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年4月から開始された国の事業に準じて、小児・AYA世代のがん患者等の妊孕性温存療法研究促進事業を実施している。子どもを産み育てることを望む小児・AYA世代のがん等の患者が将来に希望を持って治療に取り組めるよう支援するため、生殖機能を温存する治療（妊孕性温存治療）に要する費用の一部を助成し、臨床データ等に基づく有効性・安全性の高い妊孕性温存療法の普及に取り組んでいる。 ・香川県がん診療連携協議会の妊孕性温存部会を設置し、がん診療連携拠点病院等と妊孕性温存療法ができる医療機関との連携体制を推進するための「香川県がん・生殖医療連携ネットワーク」の構築を進めている。 ・医療従事者や相談対応者向けの研修会の開催を医療機関に委託して開催する。 ・がん拠点病院、生殖医療実施医療機関等によるがん・生殖医療連携ネットワークを構築し、対象者が適切な妊孕性温存療法を受けられる体制整備と、相談支援体制の確保に向けて連携を図る。

3 がんとともに尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築 -指標①-

	評価指標	策定時	現状値	目標値等	出典
最終目標	現在自分らしい日常生活を送れていると感じるがん患者の割合(再掲)	62.3% 平成30(2018)年度調査	—	増加	患者体験調査【問35-7】
分野別目標	がん相談支援センターを利用したことがある人のうち「役に立った」と回答したがん患者の割合(参考指標)	82.1% 令和4(2022)年度調査	—	— (参考指標)	香川県がん患者ニーズ調査【問28-3】
	ピア・サポートを利用したことがある人のうち「役に立った」と回答したがん患者の割合(参考指標)	73.3% 令和4(2022)年度調査	—	— (参考指標)	香川県がん患者ニーズ調査【問18-2】
	がん患者の家族の悩みや負担を相談できる支援・サービス・場所が十分であると回答した人の割合	43.5% 平成30(2018)年度調査	—	向上	患者体験調査【問30-2】
	「望んだ場所で過ごせた」と回答したがん患者遺族の割合(参考指標)	47.9% 2018-2019年度調査	—	— (参考指標)	遺族体験調査【問18-d】
中間目標	がん相談支援センターを知っている人の割合 (「知らない」と回答した割合から逆算)	58.3% 令和4(2022)年度調査	—	向上	香川県がん患者ニーズ調査【問28】

3 がんとともに尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築 -指標②-

	評価指標	策定時	現状値	目標値等	出典
中間目標	がん相談支援センターを知っている人の割合 (「知らない」と回答した割合から逆算)	58.3% 令和4(2022)年度調査	—	向上	香川県がん患者ニーズ調査【問28】
	治療決定までに医療スタッフから治療に関する十分な情報を得られた患者の割合	71.7% 平成30(2018)年度調査	—	向上	患者体験調査【問15-1】
	治療スケジュールの見通しに関する情報を十分得ることができた人の割合	70.5% 平成30(2018)年度調査	—	向上	患者体験調査【問20-1】
	患者会やピア・サポートを知っている人の割合 (「知らない」と回答した割合から逆算)	31.6% 令和4(2022)年度調査	—	向上	香川県がん患者ニーズ調査【問18】
	がん治療前に、セカンドオピニオンに関する話を受けたがん患者の割合	26.8% 平成30(2018)年度調査	—	向上	患者体験調査【問13】
	治療開始前に、就労継続について説明を受けたがん患者の割合 (参考指標)	36.0% 平成30(2018)年度調査	—	— (参考指標)	患者体験調査【問28】
	がんと診断された後も仕事を継続していたがん患者の割合(「退職・廃業した」と回答した割合から逆算)(参考指標)	75.6% 平成30(2018)年度調査	—	— (参考指標)	患者体験調査【問29-1】
	がんの治療中に、職場や仕事上の関係者から治療と仕事を両方続けられるような勤務上の配慮があったと回答したがん患者の割合(参考指標)	69.7% 平成30(2018)年度調査	—	— (参考指標)	患者体験調査【問26】
	外見の変化に関する悩みを相談ができたがん患者の割合	32.3% 平成30(2018)年度調査	—	向上	患者体験調査【問22】
	身体的なつらさがある時に、すぐに医療スタッフに相談できる人の割合(再掲)	35.9% 平成30(2018)年度調査	—	向上	患者体験調査【問35-5】
	心のつらさがある時に、すぐに医療スタッフに相談できる人の割合(再掲)	21.1% 平成30(2018)年度調査	—	向上	患者体験調査【問35-6】

3 がんとともに尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築 -取り組み-

計画	取り組み等（予定も含む）
(1)相談支援及び情報提供	<ul style="list-style-type: none"> ・がん患者やご家族等が療養生活に活かせる情報を掲載した「地域の療養情報」(小冊子)、「がん相談窓口まとめ」(リーフレット)を作成し、がん診療連携拠点病院や患者会、市町等へ周知・配布を行った。 ・がん患者等と同じ立場の者による相談(ピア・サポート)の機会を設けることにより、がん患者等の療養生活等に対する支援を実施。(がん患者等に対する相談業務委託。今年度は4つの患者会へ委託。) ・ピア・サポートに関する知識・技術の向上を目的としたピア・サポート研修会を実施し、修了者のうち、8名を「香川県がんピア・サポーター」として登録。令和5年度から、がん診療連携拠点病院等のがんサロンへ派遣を行った。(香川県がん診療連携拠点病院等への専門家派遣事業を活用) ・今年度も引き続き、ピア・サポーターの養成、がん診療連携拠点病院等への派遣を実施する予定。 ・がん患者やその家族等の快適な療養生活を支援することを目的にがん診療連携拠点病院等へ専門家を派遣。 ・香川県がん診療連携協議会の「がん相談支援部会」「緩和医療部会」に参加し、各拠点病院の取り組み状況や県との情報連携に努めている。
(2)社会連携に基づく緩和ケア等のがん対策・患者支援	<ul style="list-style-type: none"> ・拠点病院等において、地域の医療連携のツールである「地域連携クリティカルパス」や「私のカルテ」を運用。 ・多職種連携を図るための医師、看護師及び介護支援専門員など多職種を対象とした専門性の高いシンポジウム等の開催や、地域の医療機関等において在宅医療・介護連携の相談窓口を担えるコーディネーターの養成など、在宅医療・介護を担う人材の育成。(再掲)
(3)がん患者等の社会的な問題への対策 (サバイバーシップ支援)	<ul style="list-style-type: none"> ・がん患者の化学療法・放射線療法による脱毛や手術療法による乳房切除など、がん治療による外見変貌を補完する医療用ウィッグ、乳房補整具等の購入費用を助成を実施。今年度からは年齢制限を撤廃した。 ・香川県地域両立支援推進チームによる、がん患者・経験者の仕事と治療の両立支援を実施。
(4)ライフステージに応じた支援	<ul style="list-style-type: none"> ・治療と就労の両立について、香川労働局や協会けんぽ香川支部と協力し、事業者へ働きかけ。 ・患者やその家族の意向を確認し、入院、療養中の教育支援を実施。

4 これらを支える基盤の整備

	評価指標	策定時	現状値	目標値等	出典	
中間目標	がんと診断されてから周囲に不必要に気を使われていると感じると回答した患者の割合(参考指標)	11.9% 平成30(2018)年度調査	—	— (参考指標)	患者体験調査【問35-3】	
	(家族以外の)周囲の人からがんに対する偏見を感じると回答した患者の割合(参考指標)	5.5% 平成30(2018)年度調査	—	— (参考指標)	患者体験調査【問35-4】	
	がん登録の精度が維持されている	DCI(%)	3.9	3.7	維持	全国がん登録
		DCO(%)	2.5	2.1		
M/I比		0.35	0.38			
		平成31(2019)年	令和2(2020)年			

計画	取り組み等(予定も含む)
(1)人材育成の強化 (2)がん教育、がんに関する知識の普及啓発 (3)がん登録の精度の維持とデータ利活用の推進 (4)患者・市民参画の推進 (5)デジタル化の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ピア・サポートに関する知識・技術の向上を目的としたピア・サポート研修会を実施。(再掲) ・県内公立小中学校の希望校に対して、がん医療等に携わる看護師等を派遣しがん教育を行う「学校におけるがん教育ゲストティーチャー派遣事業」を実施。(教育委員会保健体育課) ・新学習指導要領に対応したがん教育の実施に向けて、教職員やゲストティーチャーを対象にした、オンデマンド研修会を実施。(教育委員会保健体育課) ・全国がん登録事業等を香川大学医学部附属病院内の香川県がん登録室において実施。 ・がん登録情報の利用に必要な手続きについて、県ホームページ等で周知。 ・がん検診啓発資材等に、がん登録情報を活用。 ・「全国がん登録」を元に香川県のがん死亡情報をまとめた「香川県のがん統計(がん死亡統計2022)」を公表。 ・病院・診療所・調剤薬局等をネットワークで繋ぎ、医療情報を相互に共有し、質の高い医療サービスを提供できる「かがわ医療情報ネットワーク(通称K-MIX R)」の活用を推進。